ちょっと名大史

230

環境学研究科の創設 ― 文理融合型大学院の誕生 ―

2001（平成13）年4月に創設され、今年で20周年を迎えた大学院環境学研究科は、当該分野では日本初の文理融合（文理連携）型大学院です。

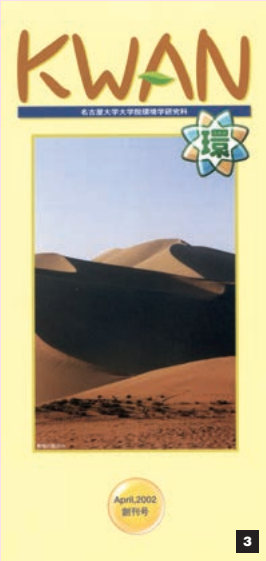
環境学研究科は、従来の領域型部局ではない融合型部局として新設され、「名古屋大学アカデミックプラン」に基づく大学再編の先駆けとなりました。当初の構想は、地球環境科学の中核的研究機関の名古屋への誘致と連動しており、名称も「総合地球環境学研究科」などとされましたが、結局、この中核研は京都に設置されることになりました（2001年設置の総合地球環境学研究所）。

1999年4月に設置された組織改革検討委員会は、教育研究組織創設等小委員会を置き、文理融合型部局の検討を行いました。そして設立準備委員会での検討の結果、文学研究科、情報文化学部、理学研究科、工学研究科、太陽地球環境研究所、大気水圏科学研究所などから教官が移動する形で新研究科を設置することになりました。

環境学研究科には、地球環境科学専攻、都市環境学専攻、社会環境学専攻の3専攻が置かれました。同研究科は学部を持たない独立研究科でしたが、教官は既存学部の教育も併任として担当しました。また、博物館、年代測定総合研究センター、アイソトープ総合センター等による協力講座も設置されました。

名称になった「環境学」は、自然と物と人の調和のとれた持続可能なシステムを体系的に構築する「持続性学」と、地球環境問題等が社会にもたらした様々な脅威の解決や予知･防災を目指す「安全･安心学」を二本柱とする、文理融合型の新しい学問とされました。

なお、このとき大気水圏科学研究所は廃止され、環境学研究科に移動しなかった約半数の教官は、新設の地球水循環研究センターに所属しました。そのほか2002年4月には、理学研究科附属地震火山観測研究センターが環境学研究科附属に移行しました。



1　環境学研究科の第1回入学式。全学の入学式より遅れ、2001年4月25日に名古屋大学シンポジオンホールで挙行された。
2　環境学研究科創設記念式典で挨拶する小川克郎初代研究科長（2001年11月9日、名古屋市内のホテル）
3　環境学研究科広報誌『環 KWAN』創刊号（2002年4月）の表紙。当初は短冊形で表紙のみカラーであったが、第13号（2007年9月）からリニューアルし、一般的な長方形のオールカラーとなった。
4　竣工当時の環境総合館（南側から撮影）。環境学研究科の拠点として、2002年8月に着工、2003年6月に竣工した。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内　名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

NAGOYA UNIVERSITY 150th Foundation　創基150周年、世界で輝くために

With コロナでのキャンパスライフ応援事業（基金）ご支援のお願い

名古屋大学では「新たな生活様式」を取り入れ、安心・安全に充実した学生生活を送れるよう、「Withコロナでのキャンパスライフ応援プラン」を実施します。学修環境や課外活動への対策に加え、一人ひとりの悩みに寄り添う学生支援などを進めてまいります。コロナ禍においても挑戦する姿勢を育み続けるため、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

Webでもご寄附を受け付けております。

https://fundexapp.jp/nagoya-u/entry.php?purposeCode=110000

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office（DO室）あて（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）にお願いいたします。

■ 詳しくはホームページをご覧ください。
名古屋大学基金　https://kikin.nagoya-u.ac.jp/
アクセスはこちらから